

地域を越えた歴史文化の視点

31. 秦氏・渡来人伝承

【ストーリー】

坂越の生島に漂着した伝説をもつ、聖徳太子の重臣、秦河勝。旧赤穂郡（現在の赤穂市・相生市・上郡町）には、かつて秦河勝＝大避大明神を祭神とする神社が約 30 あったと言われている。現在でも、赤穂市内でゆかりの神社として 8 社が確認でき、千種川流域にその分布が広がっていたことがわかっている。

秦氏伝承は、朝鮮半島から様々な文化を伝えた渡来人伝承のひとつであり、奈良県平城宮跡の発

掘調査で見つかった木簡からは、赤穂郡の秦氏に関する記録が見つまっているほか、8 世紀から 12 世紀くらいまでの古文獻に、赤穂郡を治めていた秦氏の記録が残されている。さらに、有年原・田中遺跡や蟻無山古墳からは、朝鮮半島からもたらされた文物の一つである初期須恵器が、また有年牟礼・山田遺跡からは、「秦」と線刻された土器が出土するなど、渡来人や秦氏との深いかわりを予感させるに十分な資料に恵まれている。



蟻無山 1 号墳出土土器
5 世紀前半の渡来系文物として知られる。



有年原・田中遺跡出土土器
5 世紀前半の渡来系文物として知られる。周辺に窯跡が想定されている。



「秦」線刻土器
赤穂郡と秦氏との関わりを示す平安時代の須恵器碗の破片。



大避神社（西有年）
秦河勝を祭神とする神社。周辺には社叢林が広がり鎮守の森となっている。



大避神社（中山）
中山集落の北方山裾にある、秦河勝を祭神とする神社。天満神社、荒神社を合祀している。



八幡神社（周世）
周世集落の背後にあり、大避神社を合祀している。



大避神社（木津）
秦河勝を祭神とするもので『赤穂郡誌』（明治 41 年刊）によれば、明暦 2（1656）年の鎮座と伝える。



生島
秦河勝漂着伝説をもち、伝秦河勝墓が所在する。



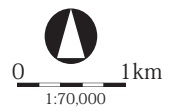
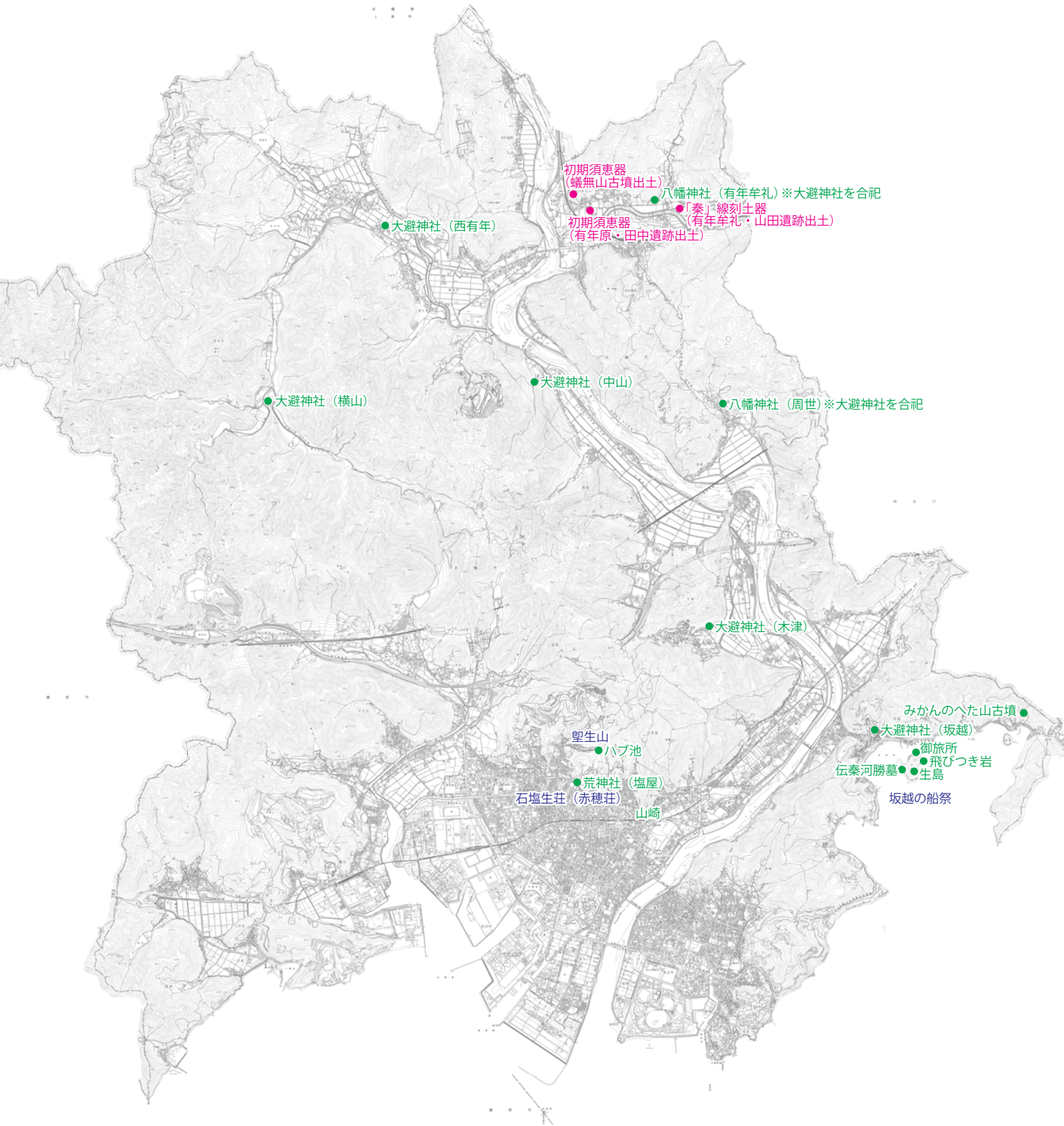
大避神社（坂越）
秦河勝の漂着地である坂越に鎮座し、生島内に御旅所をもつ。



御旅所
生島内にあり、隣接して「坂越の船祭」で使用される和船の船倉が立地する。



生島古墳（伝秦河勝墓）
生島内にある径約 21m の円墳。築造年代は明らかでない。



凡例 ●もの ●場 ●こと